

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	心身に不安のある方の無料健康相談と支援
資金分配団体名:	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
実行団体名:	特定非営利活動法人サロンみの保健室
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	栃木県
事業対象者:	心身に不安のある方

Version 3.2
日付: 2022年02月28日

I. 事業概要

事業実施概要	コロナ禍が人々の孤立化を招き、心身の不安を一人で抱えている人のために無料の健康相談と支援を主事業として活動した。活動日 火曜日・水曜日・木曜日 午後2時～6時、支援方法は対面による相談・電話による相談である。支援者は有資格者（保健師・助産師・看護師・社会福祉士）シフトを組んで2人～3人体制で対応した。実績として対面による健康相談と支援が延べ167人、電話相談が延べ101人であった。出前健康相談は4回で延べ57人であった。次に健康維持増進のための交流会・セミナーは9回実施し、参加者は合計108人、出前の健康セミナー（セミナーに来てほしいという依頼を受けて行う）は15人であった。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	ターゲットは対面での人との接触を避ける一方で、人との繋がりを欲していると仮定し、電話による健康相談を始めた。結果、想定以上に電話相談利用者が多く事業開始は妥当だったといえる。また利用者発掘のために地域に赴き孤立化予備軍に直接会いに行った。そこで接点ができた方が保健室に来訪したことや、利用者の口コミが広がったことで利用者が増加した。一人暮らしで『誰かと話したい』『一人だと張り合いがない』『配偶者を亡くし時間がたっても癒されない』といった方も頻繁に来室しており、帰宅の際は『来てよかった』『楽になった』と話すなど健康相談の効果を感じている。健康相談利用者は当初予定していた80人を大きく上回り、延べ268人となった。我々が意識している「個人的話・考えを否定せずに受け入れる」姿勢が利用者に居心地の良さを感じさせ、利用者増加の要因となったと考えている。健康維持増進のための交流会やセミナー参加者数の目標値は延べ70人としていたが、延べ123人となった。セミナーは感染対策実施は基本として、ターゲットのニーズを捉えられていたこと、アットホームな空間を作っていたことがリピーターの獲得に繋がって想定よりも参加者数が増えたと思う。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	相談先の不足	一人で、心身の不安や悩みを抱えることなく「サロンみんなの保健室」で相談することができる。	健康相談の来室者数	健康相談数延べ80名	健康相談数 対面：167人 電話相談101人 計 268人 出前健康相談：延べ57人	広く遍く人をターゲットとしていたところ、孤立化予備軍にターゲットを絞って活動を開始。ターゲットへのアプローチ方法として、直接会いに行くという方法を取ったことで、接点ができた方が健康相談を利用した。利用者にとって、我々の「個人的話・考えを否定せずに受け入れる」姿勢が利用者にとって居心地の良い空間を提供できており、結果利用者が想定以上に多かったと考えている。健康相談利用によって思考が前向きになったり、ボランティア活動を始め社会との接点を持ったり、BMI値が下がり実際に健康になったりという事例を作り出した。
その他	その他	健康に関するセミナーを開催し、健康維持・増進に寄与する。	セミナー開催数と参加者数	セミナー、交流会の参加者延べ70名	交流会・セミナーの参加者：延べ108人 出前セミナー：15人	アンケート結果から、利用者にとって関心のあるテーマ設定であり、わかりやすかったことがわかっており、そのことがリピーターの獲得に繋がっていると考えている。また、講師の方からもアットホームな雰囲気が良さだとも言われ、そのこともリピーター獲得に起因していると考えている。
その他	その他	他団体と情報共有し連携方法について検討できる。	連携・協働した団体数	連携・協働した団体数2団体	4団体	団体と繋がったことによってケース会議や、食品の提供を実施できている。また活動が加速したことによって相談対応をお願いされ、そこで繋がりをを持った人が保健室に来訪することでさらに活動が広がるという好循環を作り出している。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	一人で心身の悩みを抱えている方が「サロンみんなの保健室」を利用することにより孤立化防止に寄与できる。またNPO活動他団体との連携・協働を進めることにより利用者の拡大・強化ができる。「サロンみんなの保健室」活動が人々から認知され、地域の健康の拠点場所としていく。
考察等	保健室で待つ姿勢から、保健室外で他団体に関わる人への健康相談を行うことで、孤立化予備軍へのアプローチをすることができており、彼らにとって今後も健康に悩んだら健康相談しても良い場所として認知され始めていると考えている。また健康の地域拠点として機能させるため、民生委員に地域での広報活動への協力、相談者の紹介を行っていただくという連携をしたり、地域の高齢者に向けた健康セミナーを実施したりしている。また相談利用者数が増え、様々な場所で保健室の必要性についてより広く伝えることができているため、他地域で保健室を設置したいという声もいただいている。今後複数地域で地域の健康拠点としての保健室を機能させていきたい。

V. 活動

活動	進捗	概要
無料の健康相談 火曜日・水曜日・木曜日	計画通り	目標達成 今後も継続していく
健康維持増進のためのセミナー、交流会	ほぼ計画通り	概ね目標達成 今後も継続していく

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>他実行団体との話し合いの中でターゲット設定を見直し、「孤立化予備軍」へのアプローチを行っていくことが決定した。元々対象者に直接会いに行くことが大事だと考えていたこと、また孤立化予備軍に相当する利用者がいると考えられたことから、就労支援センターでの健康相談の依頼を引き受けることとなった。弊社スタッフが健康相談に訪れる際の就労支援センター利用者の出席率が高いと言われ、求められている支援を届けられたことを実感できている。また、就労支援センターの利用者の方が『サロンみんなの保健室』を利用しはじめ、彼らの口コミが広がり他の就労支援センターからも健康相談の依頼をいただくこととなった。また実行団体である「フードバンクうつのみや」との連携をしたことで、貧困により健康問題が生じている方へ食品提供を行うことができるようになったことは大きな変化であると考えている。想定以上に広い範囲に活動の必要性を届けられたことにより3件ほど同じような活動を行いたいという声も頂いている。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>当初想定していた以上に健康相談の利用者は多く、社会的意義を感じている。また孤立による健康相談利用者数は減っておらず今後も必要性が求められるだろう。しかし活動の中で孤立な方ほど健康問題を抱えていることを感じており、健康相談はできているが、相談利用者の生活にまで影響を与えられていないことにもどかしさを感じている。この課題への対応策として、相談利用者が相談した直後は良い生活を送ろうとモチベーションが高い状態になっていることから、利用者が定期的に通いたくなるような場づくりを目指していく必要がある。例えば、アットホームな空間を作るために、利用者への接し方の研修や、接し方が上手な人の積極的なリクルートをしていきたい。</p> <p>また、現在保健室は一つの拠点しかなく、サービスを届けられる範囲が限定的であり、他の場所でも保健室を作りたいという声をいただいている。そのため現在の活動を取り組みつつ、スタッフの出張による健康相談に力を入れ、別地域に保健室を設置するための支援をしていきたい。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
NPO法人 そらいろコアラ	ミーティング3回 対応困難な事例の共有と対策、グループラインを活用した連携・協働
NPO法人 フードバンクうつのみや	絆BOX載設置、絆セットを預かり必要者に供給
DINQL就労センターとの連携と支援	月1回出前健康相談の実施
宇都宮市女性支援事業『つなサボ』との連携	生理用品の配布場所として必要者に生理用品の供給

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	737,830	737,799	100.0%
	管理的経費	165,170	159,222	96.4%
合計		903,000	897,021	99.3%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	9月12日 下野新聞 : テーマ「サロンみんなの保健室」開設1年 1月2日産経新聞 : テーマ「保健室」健康づくり後押し、11月2日 宮ラジ出演 : テーマ「サロンみんなの保健室」紹介、1月まちピア: 「サロンみんなの保健室」の紹介7月～現在下野新聞レディースクラブPresso2021に毎月「サロンみんなの保健室だより」を掲載
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	保健室の活動紹介のリーフレット 1000枚
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	非接触型表面温度計付きオートハンドディスペンサーにシンボルマークを貼付
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		規程類を整備中で、現在理事会に審議をかける段階に来ている。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
特記無し